パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会　会報　　２０２３年２月１日　２３３号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

養殖池

池岸で網を引く役を担った大西さん。

親魚候補をていねいに吟味する川久保さん(左)、滝川さん(中)ほか。1月2日

2023年、パクー増殖開始！

孵化・養殖・商品化・販売まで、青年の力で

新年とともに、パクーの人工増殖シーズンが始まったレダ基地。滝川哲盤さん、川久保安史さんたちを中心に、新しい抱負と決意に燃えた青年たちがいます。

パクーの増殖は、まず人工孵化から始まります。そこで極めて重要なのが、親魚となるオスとメスの選定。特別に保護し、栄養を与えて育成したパクー成魚の中から、健康で十分に成熟した魚を選び出します。

年末年始はチャマココの従業員たちのほとんどが帰省します。そこでレダに残った日本のチャパボラ青年たちを中心に、総動員態勢で作業を行いました。池幅いっぱいの網を皆で持ってパクーを追い込み、成熟したパクーを取り上げて、お腹の状態から繁殖の準備がどの程度できているかを調べます。本稿の執筆時点では、その作業が進行中でしたが、本紙が皆様のお手元に届くころには、孵化の過程が完了しているでしょう。

皆様が協力してくださったクラウドファンディングで、昨年レダに念願の急速冷凍庫を設置、稼働させることができました。今年は冷凍パクーを機動的に運送するため、新たな冷凍車を導入します。また、首都アスンシオンに商品魚の冷凍庫を設置し、アンテナショップから始めて、首都とその周辺地域に販路を開拓していきます。そして、これらすべての計画を青年が立案し、実行に移し、実績をあげるまで、主体的な責任を担っているのです。いまや高齢に達した古参スタッフも、全力で彼らを応援していきます。

昨年は、稚魚の放流式典をバイア・ネグラ市と共同で実行しました。同市はパクーの増殖のノウハウをレダから教わって、新たな地域産業を興すことを計画しています。また、フエルテ・オリンポ市ほか、他の自治体もレダの養殖技術に関心を持っています。青年たちが積極的に、自慢の冷凍パクーを携えて近隣コミュニティを訪れ、販売し続けたことで、多くの人々にレダのパクーの品質の高さが知れ渡るようになりました。

まだまだ行く道は遠く、必ずしも平坦ではありませんが、レダの青年たちの心情は熱く、意志は強靭です。

レダ基地スナップ

レダの成人式は特別です。1月9日

緑濃きレダの雨季。あらゆる植物がすさまじい勢いで成長します。1月1日

新成人の皆様、おめでとうございます。

レダの庭のポルトゥラカ。1月1日

レダの庭のツユクサ。1月1日

ニンジンをおろす大西さん。1月11日

レダ産のニンジンです。1月11日

大根餅をつくりました。11月11日

島田家の芸術家、まーくん。12月4日

ダンボールで遊ぶ子供たち。12月18日

いつも元気な島田ファミリー。1月2日

粘土細工いろいろ。12月20日

北中氏とパパイヤ。12月30日

山崎氏とパパイヤ。12月30日

レダ産の大根です。1月11日

持続可能な福地建設をめざして18

最終回　私たちのレダ開拓の未来展望

和田賢一

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

国連のＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）について、約１年半、論じてきました。17の項目をつぶさに解説しつつ、私たちがパラグアイで展開しているレダ開拓と、どのような関わりがあるのか、またＳＤＧｓのめざすところを私たちがどのように取り入れることができるのかなどを考えてきました。

ＳＤＧｓのめざす目標があまりにも高く、かつ広範囲であるために、今の私たちのレダ開拓の現状とはほど遠いところが多々ありました。ＳＤＧｓの中でも、国家や自治体、大手企業が直面している分野については、私たちは論じるまでもなく、関わりすら持つことはできません。しかし、ＳＤＧｓの基本は、自らの立場、組織などにおいて、いかにその精神や指針を視野に入れて行動するかという点にあるため、多くの課題が浮き彫りになり、目標がさらに明確になったことも事実です。

ここで、改めてレダ開拓の未来について考えてみたいと思います。

レダ開拓23年以上を経過した今日、現地長期滞在者と短期滞在者とを含めた人数において、住宅、水道、電気などの基本的な生活環境は整っていると考えます。またプロジェクトも牧畜（牛）は推進中で、養豚も規模は小さいけれども維持。淡水魚パクーの孵化と養殖は曲りなりにも軌道に乗り、冷凍パクーの販売をめざしています。

今年は、首都アスンシオンにアンテナショップを開設し、その商品として冷凍パクーを、またテストケースで養蜂を行い、ハチミツを加えたいと検討が進められています。さらにソーセージなどの加工食品の製造・販売のための工房建設も進めています。

現状においては、レダとアスンシオンの２つの拠点を中心に開拓を進めていくわけですが、近い将来に数十家庭を含む50人規模の「村」つくりを目標としたいと考えます。そうすると、世代交代と相まって、自立経済体制の確保が重要課題になってきますし、それに伴う、インフラの整備も欠かせない課題として浮上してきます。ここで、ＳＤＧｓとの関わりが本格的に論議されることになるでしょう。

ＳＤＧｓの基本精神は、いかなるものも「持続させる」態勢をいかにつくるかということです。一つ一つのプロジェクトを継続していくことは当然として、それを維持するために、まだ手つかずの取り組み、例えば宗教施設、診療所の設置、学校運営などにも着目せねばなりません。

これを、組織的にまとめてみると、家庭レベルの課題、プロジェクトの組織体制（株式会社などの法人化、入植者の雇用体制）の確立、さらにレダ全域の管理として、「村長」と管理組織の在り方（地域指導者、宗教指導者などの選定。自治組織の形成）、周辺の自治体・政府の行政との関わり方などを視野に入れて開拓を進めねばなりません。

ロラン島の発電用風車群。余剰電力で水素を製造する。

ＳＤＧｓの観点では、前回の項目でも述べましたが、あくまで経済の視点から見た「開発」を主眼に入れているために、欠落した部分があることを述べました。そもそも、いかなる活動においても、目標そのもの自体に、趣旨や基本理念、理想といった精神的なものが付随しています。それらの点については、今回のシリーズの「宿題」とし、改めて論じることにしたいと思います。

インフラ整備を考えると、住宅（戸建て、共同住宅）、ガス（プロパンガスの完備）、水道施設の完備（浄水場・給水塔、水道管の配備）、インターネット環境の整備、廃棄物の処理（ごみの分別と処理施設の建設）等々、切りがありません。

ここで考えたいのは、こうしたインフラ整備の骨格として、レダ開拓にとっていかなるエネルギーを選択するかという問題です。現在の日本は、石油・石炭・天然ガスの化石燃料と原子力、そして再生エネルギーの組み合わせであることは周知の事実。その比重は圧倒的に化石燃料に頼っています。レダでの村づくりの基盤としてのエネルギー源の選択は限られます。不安定な公的電力(水力)を主電源として、自家発電(ディーゼル)を非常用電源としています。

一つ例を紹介します。北欧のデンマークは大小さまざまな島で構成されている国です。首都コペンハーゲンもシェラン島の一角に位置します。島々の中にロラン島があり、かつて産業は農業のみだったと言います。したがって発展した首都があるシェラン島と激しい経済格差が生じており、一時は「国のお荷物」とまで言われていたそうです。

そのロラン島の島民は、島の発展はまずエネルギー改革からと一念発起し、風力発電による電力確保に立ち上がりました。家庭用としては小さな風車で自家発電し、企業はその規模に応じて大型、中型の風車を設置し、公的施設には公的な風車を設置していきました。その結果、全島の需要を満たして余りある、年間52億キロワット時(Wikipedia 日本語版)を発電するまでになりました。省エネによる発展の良きモデルとして、注目を集めるまでになったのです。

ロラン島の面積は１２４３平方キロ、人口約６万５千人。パラグアイのチャコ地方の面積は40万平方キロで人口はあって無いようなもの。無論、比較するわけではありません。レダ開拓を進める上で、私たちがどういう目的に向かって、どういう手段・方法を選択していくのかという、一つの在り方を示してくれているようです。

いよいよ本年、チャコ地方を横断する南米大陸横断回廊(高速道路)が開通するようになり、レダ近辺も大きく変貌していくことでしょう。私たちはいよいよ本格的な村づくりのための青写真の作成が急がれるところまできたようです。（おわり）

去る12月23日、チャパボラ二期生４名が、３週間の実務体験過程を修了しました。以下、その感想です。

●**澤木さん**：従業員たちと、思いのほかよく話せた。ジェスチャーを通して言葉を教えてくれるのが楽しい。スペイン語の勉強会が活かされている気がする。

日々の労働はいい汗をかいて、働いているなぁって感じ。パクー養殖の作業だけだったら、力仕事がほとんどだけれど、エビの養殖では、インターンで勉強しにきた大学生として見てくれ、いろんなことに挑戦していいよって言ってくれる。こうして自分のやりたいことに挑戦できる環境があるのは嬉しい。何か育ててみたい。パクーやエビのエサになるようなものとかを研究し、レダに残していけるものを育てられたらいいな。

●**源田君**：これからがとにかく楽しみ。販売担当をリーダーとして任されて、販売に関わること自体が初めて。自分たちの育てた豚を食べてもらうのを想像すると、わくわくする。企画とかも、何年先でも持続可能な販売計画を立てたり、商売をやっていける感じ。自分の志望する教育と真逆だからこそ楽しい。これは絶対に生きてくる。一人一人の役割があって責任感もあるのが楽しい。やりがいがある。

エスペランサ村で出会った子どもたちと関わって、拒否されないか心配したけれど、みんなで空き地で遊んで、昭和の日本みたい。一日一日幸せそうに遊んでいる姿は刺激になるし、この子たちのために尽くしたいなぁって思う。夏休み期間で学校がない中、どこまで教育に関われるか考える。遊ぶだけでなく、子どもたちに何を教えるかが大切。ゴミ拾いから教育を広げていく。そこから教えられる範囲で教える。その子たちにとって、どれほど将来を変えられるか分からないけれど、国を支えられるような義人になってほしいなって思う。

日本だと先生もいて、自宅での環境もあって、そこまで思わなかったけれど、エスペランサ村の子どもたちの環境では自分の力が必要だと感じた

●**大野さん**：仕事の体験期間を通して大まかに感じたことは、現場で仕事に就いてみて、わかる世界があるということ。大変さについても。一つ一つそこでしか味わえない大変さを、体験を通して分かった。内務に関しても、実際の仕事に就いて、本当に大変だと感じた。未経験の人が急にやるのは難しい。

一般的に考えれば、何年もかけて経験を積みながら分かっていくようなことを、数ヶ月で覚え、担当していかなくてはならない。知識と経験の積み重ねがある人はいいが、何も分からない人がやることの大変さを見直す必要はあると思う。

高齢のシニアだけでなく、壮年世代の人も必要。

レダ摂理はどうなっていくのか？ シニアたちが築いた基盤があるけど、自分たちがどう変えていくか。私たちは便利な世の中から、原始的なレベルのレダに来た。ここからいかにして現代的レベルまで発展させるか。二世とか若者も厳選して、彼らが休息し、かつ貢献できる場所にしていく。自然に囲まれたこのレダの地で、各分野のエキスパートは必要。そして自分の情熱に従って創意工夫できることが大切。

レダを考えた時に、ブタに話しかけたり、ブタと触れ合ったりすると、それだけで幸せを感じる。ブタもいろんな顔つきのがいたり、ヤギもいたり、おじさんみたいな声を出したりして面白い。養豚の作業を通して内的に洗われていると思った。

●**福井さん**：豚について書かれた本を色々読み、どうして養豚のメンバーがこういうことをしているのかとか、本を通して考えることで全体像が見えてきた。農業体験では、知り合いの農家の人に農作業のことを教えてもらい、インタビューしたことから、とても啓発された。これからもっと美味しく健康的な野菜を作りたい。そうして多くの人々に食べてもらい、喜んでもらえるようになりたい。

一般社団法人
南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001
神奈川県川崎市高津区
溝口３－１１－１５
岩崎ビル４Ｆ

電話：044-829-2821
FAX：044-829-2820

支援金振込口座：ゆうちょ銀行
記号10280　番号61349751
一般社団法人 南北米福地開発協会

e-メール:office@asd-nsa.com
ホームページ:https://asd-nsa.com
Facebook:https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。

入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。

パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

https://asd-nsa.com/nk/

レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版

紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。

https://asd-nsa.com/sk/